

葛巻町監査委員告示第3号

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項に基づく令和6年度国民健康保険病院事業会計、水道事業会計及び下水道事業会計決算について、審査の結果を別紙のとおり公表する。

令和7年8月26日

葛巻町代表監査委員 馬 渕 文 雄

葛巻町監査委員 樋 口 一 男

監 第 43 号  
令和 7 年 8 月 26 日

葛巻町長 鈴木 重 男 殿

葛巻町代表監査委員 馬 淵 文 雄

葛 巻 町 監 査 委 員 樋 口 一 男

令和 6 年度国民健康保険病院事業会計、水道事業会計及び下水道事業  
会計決算審査意見書の提出について

地方公営企業法（昭和27年8月1日法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された令和6年度国民健康保険病院事業会計、水道事業会計及び下水道事業会計決算書並びに証書類を審査したので、次のとおり意見書を提出します。

# 令和6年度国民健康保険病院事業会計、 水道事業会計及び下水道会計決算審査意見書

地方公営企業法（昭和27年8月1日法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された令和6年度の国民健康保険病院事業会計、水道事業会計及び下水道事業会計決算書と証書類を審査したので、次のとおり意見を付する。

## 第1 審査の対象

- ・ 令和6年度国民健康保険病院事業会計決算  
（審査書類：決算書、財務諸表、決算附属書類）
- ・ 令和6年度水道事業会計決算  
（審査書類：決算書、財務諸表、決算附属書類）
- ・ 令和6年度下水道事業会計決算  
（審査書類：決算書、財務諸表、決算附属書類）

## 第2 審査の期間

令和7年7月22日から8月20日まで

## 第3 審査の方法

審査に当たっては、町長から提出された決算書及び財務諸表等が関係法令等に準拠して作成されているか確かめ、各事業の経営成績及び財政状態が適正に表示されているか、また、計数に誤りがないか諸帳簿と照合し、不明な点は担当者の説明を求めて審査した。

## 第4 審査の結果

審査に付された3事業の決算書及び決算附属書類は、関係法令の諸規定に準拠して作成されており、会計帳簿、証書類等と照合点検したところ、計数については正確であり、令和6年度の経営成績及び財政状態を概ね適正に表示しているものと認められた。

以下、審査の結果は次の会計別に述べるとおりである。

### 凡 例

- 1 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。したがって、構成比等において合計と内訳の合計比率が一致しない場合がある。
- 2 各表中の符号の用法は、次のとおりである。  
“0.0”・・・比率において、該当数値はあるが単位未満のもの  
“△”・・・マイナス（-）、減少、低下  
“-”・・・該当数値なし

# 国民健康保険病院事業会計

## 1 経営の成績及び予算の執行状況

### (1) 患者数の動向について

令和6年度の患者数は次表のとおりである。

患者数	6年度	5年度	増 減		1日平均患者数		増 減
			人 数	率	6年度	5年度	
入院	10,585	11,544	△959	△8.3	29.0	31.5	△2.5
一般	2,071	2,334	△263	△11.3	5.7	6.4	△0.7
包括	8,514	8,014	500	6.2	23.3	21.9	1.4
療養型	-	1,196	△1,196	皆減	-	3.3	皆減
外来	25,344	27,197	△1,853	△6.8	104.3	111.9	△7.6
合計	35,929	38,741	△2,812	△7.3	133.3	143.4	△10.1

(単位：人、%)

- 入院患者数は、前年度比959人(8.3%)、外来患者数は、前年度比1,853人(6.8%)減少している。

### (2) 収益的収入及び支出について

#### (ア) 収益的収支の状況

収益的収入及び支出の状況は次表のとおりである。

区 分		6年度 予算額 (A)	6年度 決算額 (B)	比較増減 (B) - (A)	執行率	5年度決算額 【参考】
収 入	医業収益	727,621,000	638,487,477	△89,133,523	87.8	667,006,208
	医業外収益	294,970,000	306,034,491	11,064,491	103.8	316,453,317
	特別利益	75,002,000	99,618,604	24,616,604	132.8	94,704,888
収入合計① (病院事業収益)		1,097,593,000	1,044,140,572	△53,452,428	95.1	1,078,164,413
支 出	医業費用	1,173,934,000	1,076,337,916	△97,596,084	91.7	1,066,846,204
	医業外費用	11,756,000	25,687,600	13,931,600	218.5	18,662,907
	特別損失	3,000	1,208,697	1,205,697	※	2,837,871
支出合計② (病院事業費用)		1,185,693,000	1,103,234,213	△82,458,787	93.0	1,088,346,982
差引額①－②			△59,093,641			△10,182,569

※40,289.9

(単位：円、%、税込)

- 6年度予算の執行状況は、収入については、予算額1,097,593,000円に対し、決算額1,044,140,572円で執行率(95.1%)、前年度比34,023,841円(3.2%)の減となった。

医業収益は、予算額727,621,000円に対し、決算額638,487,477円で執行率87.8%となり、前年度比28,518,731円(4.3%)の減となった。主な要因は、患者数等が減少したことによる減である。

医業外収益は、予算額294,970,000円に対し、決算額306,034,491円で、前年度比

10,418,826円(3.3%)の減となった。主な要因は、新型コロナウイルス感染症入院施設等確保事業による県補助金の皆減などによるものである。

支出については、予算額1,185,693,000円に対し、決算額1,103,234,213円で執行率93.0%となり、前年度比14,887,231円(1.4%)の増となった。

医業費用は、予算額1,173,934,000円に対し、決算額1,076,337,916円で執行率91.7%となり、前年度比9,491,712円(0.9%)の増となった。

医業外費用は、予算額11,756,000円に対し、決算額25,687,600円で執行率218.5%となり、前年度比7,024,693円(37.6%)の増となった。主な要因は、消費税納付額等の増によるものである。

(イ) 特別利益の状況

決算額99,618,604円となり、前年度比4,913,716円(5.2%)の増となった。主な要因は、戻入益等の増である。

(ウ) 特別損失の状況

決算額1,208,697円となり、前年度比1,629,174円(57.4%)の減となった。主な要因は過年度損益修正損の減である。

(3) 未処理欠損金の状況について

未処理欠損金などの状況は次表のとおりである。

項 目	6年度	5年度	4年度【参考】
事業収益	938,930,290	977,891,544	1,011,747,014
特別利益	99,618,604	94,704,888	80,172,196
総収益 (A)	1,038,548,894	1,072,596,432	1,091,919,210
事業費用	1,100,740,965	1,082,254,526	1,076,435,962
特別損失	1,208,697	2,837,871	2,106,074
総費用 (B)	1,101,949,662	1,085,092,397	1,078,542,036
当年度純利益 (△純損失) (C(A-B))	△63,400,768	△12,495,965	13,377,174
前年度繰越欠損金(D)	659,138,792	646,642,827	660,020,001
当年度未処理欠損金(D)-(C)	722,539,560	659,138,792	646,642,827

(単位：円、税抜)

- 5年度末の未処理欠損金は659,138,792円で、6年度純損失63,400,768円を加え、6年度末の未処理欠損金は722,539,560円となった。

(4) 繰入状況について

一般会計からの負担金、補助金及び出資金の繰入状況は次表のとおりである。

項 目	6 年度	5 年度	比 較	4 年度【参考】
一般会計負担金	283,755,000	273,447,000	10,308,000	288,648,000
医業収益	39,688,000	39,688,000	-	39,688,000
医業外収益	182,021,000	178,501,000	3,520,000	177,853,000
資本的収入	62,046,000	55,258,000	6,788,000	71,107,000
一般会計補助金	120,752,000	121,253,000	△501,000	123,622,000
医業外収益	45,752,000	46,253,000	△501,000	48,622,000
特別利益	75,000,000	75,000,000	-	75,000,000
一般会計出資金	-	-	-	-
合 計	404,507,000	394,700,000	9,807,000	412,270,000

(単位：円、税抜)

- 前年度との比較では、全体で9,807,000円(2.5%)の増となった。主な要因は、企業債償還元金の増加に伴い、一般会計からの繰入額が増加したことによるものである。

(5) 資本的収入及び支出について

資本的収入及び支出の状況は次表のとおりである。

項 目	6 年度決算額 (A)	5 年度決算額 (B)	増 減 (A) - (B)
収 入	177,746,000	82,096,000	956,650,000
支 出	242,658,835	139,584,664	103,074,171
差 引	△64,912,835	△57,488,664	

(単位：円、税込)

## 2 財政状態

(1) 資産について

資産の状況は次表のとおりである。

項 目	6 年度	5 年度	比較
① 固定資産	2,426,084,324	2,454,943,447	△28,859,123
有形固定資産	2,426,084,324	2,454,943,447	△28,859,123
土地	206,143,881	206,143,881	-
建物構築物	2,020,458,418	2,130,497,573	△110,039,155
器械及び備品	199,401,438	118,221,406	81,180,032
車両	80,587	80,587	-
その他	-	-	-
② 流動資産	803,673,270	889,735,317	△86,062,047
現金及び預金	672,812,401	786,159,336	△113,346,935
未収金	132,801,984	103,867,198	28,934,786
貸倒引当金	△10,131,179	△10,131,179	-
貯蔵品	8,190,064	9,839,962	△1,649,898
資産合計 (① + ②)	3,229,757,594	3,344,678,764	△114,921,170

(単位：円、税抜)

- 資産合計は 3,229,757,594 円で、前年度比 114,921,170 円 (3.4%) の減となった。有形固定資産の減は、建物構築物が 110,039,155 円 (5.2%) 減によるものであり、これらは主に、減価償却等によるものである。流動資産の減は、主に現金及び預金の減によるものである。

(2) 資本について

資本は 286,066,799 円で、前年度比 63,400,768 円 (18.1%) の減となった。主な要因は、未処理欠損金の増によるものである。

(3) 負債について

負債の状況は次表のとおりである。

項 目	6 年度	5 年度	4 年度
① 固定負債	2,438,105,350	2,500,627,209	2,600,040,138
企業債	2,194,528,938	2,247,565,450	2,346,978,379
退職手当引当金	243,576,412	253,061,759	253,061,759
② 流動負債	221,254,324	212,128,945	196,940,696
企業債	128,897,888	124,091,711	110,515,826
一時借入金	-	-	-
未払金	71,060,820	67,698,045	67,598,618
消費税	256,400	909,400	1,093,200
預かり金	564,930	974,992	859,538
賞与引当金	20,474,286	18,454,797	16,873,514
③ 繰延収益	284,331,121	282,455,043	318,761,464
長期前受金	1,229,687,865	1,152,090,187	1,114,295,151
長期前受金収益化累計額	△945,356,744	△869,635,144	△795,533,687
負債合計 (①+②+③)	2,943,690,795	2,995,211,197	3,115,742,298

(単位：円、税抜)

- 負債合計は 2,943,690,795 円で、前年度比 51,520,402 円 (1.7%) の減となった。主な要因は、長期前受金収益化累計額の減によるものである。

(4) 不良債務について

流動資産合計額から流動負債合計額を差し引いた金額が、マイナスの場合は不良債務という。

区 分	6 年度	5 年度	4 年度
流動資産合計額 (A)	803,673	889,735	897,828
流動負債合計額 (B)	221,254	212,128	196,940
差 引 (A)-(B)	582,419	677,607	700,888
医業収益	633,077	661,634	690,372
不良債務比率	-	-	-

(単位：千円、税抜)

- 流動資産合計額が流動負債合計額を上回っており、不良債務は発生していない。

(5) 未収金について

個人未収金の状況は、次表のとおりである。

区 分	6 年度	5 年度	4 年度
医業未収金	13,493,251	13,398,917	13,984,549
現年度	2,226,720	1,963,586	2,571,378
過年度	11,266,531	11,435,331	11,413,171
医業外未収金	-	-	-
合 計	13,493,251	13,398,917	13,984,549

(単位：円)

- 未収金合計は、前年度対比で 94,334 円 (0.7%) 増加した。医業未収金のうち過年度の未収金は、前年度対比で 168,800 円 (1.5%) 減少し、現年度の未収金は、263,134 円 (13.4%) 増加した。

### 3 資金状況

6年度のキャッシュ・フローの状況は、次表のとおりである。

業務活動によるキャッシュ・フローは、病院本来の業務活動の実施に必要な資金の状態を表すもので、投資活動と財務活動以外の取引によるものを表している。

投資活動によるキャッシュ・フローは、将来に向けた運営基盤の確立のために行う投資活動に係る資金の状態を表している。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入、返済による収入、支出などの、資金調達及び返済による資金の状態を表している。

キャッシュ・フロー計算書

区 分	6 年度	5 年度	比較
<b>1 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
当期純損失	△ 63,400,768	△ 12,495,965	△ 50,904,803
減価償却費	136,426,123	149,430,277	△ 13,004,154
引当金の増減額（△は減少）	△ 7,465,858	1,581,283	△ 9,047,141
長期前受金戻入額	△ 100,169,922	△ 93,802,421	6,367,501
受取利息及び受取配当金	△ 6,332	△ 134	△ 6,198
支払利息	7,760,299	7,838,412	△ 78,113
有形固定資産除却損等	368,000	2,001,345	△ 1,633,345
営業活動による資産及び負債の増減	-	-	-
未収金の増減額（△は増加）	△ 28,934,786	17,557,224	△ 46,492,012
たな卸資産の増減額	1,649,898	1,909,916	△ 260,018
前払金の増減額（△は増加）	-	-	-
未払金（未払債務）の増減額（△は減少）	2,709,775	△ 84,373	2,794,148
その他の流動負債の増減額（△は減少）	△ 410,062	115,454	△ 525,516
その他（営業活動以外の物）	-	-	-
固定資産の売却	-	-	-
小計	△ 51,473,633	74,051,018	△ 125,524,651
利息及び配当金の受取額	6,332	134	6,198
利息の支払額	△ 7,760,299	△ 7,838,412	77,843
その他	-	-	-
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 59,227,600	66,212,740	△ 125,440,340
<b>2 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出	△ 107,935,000	△ 26,497,836	△ 81,437,164
有形固定資産の売却による収入	-	-	-
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	62,046,000	55,258,000	6,788,000
国庫補助金による収入	40,000,000	2,238,000	37,762,000
その他	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,889,000	30,998,164	△ 36,887,164
<b>3 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
一時借入金の返済による支出	-	-	-
建設改良等の財源に充てるための企業債による収入	75,700,000	24,600,000	51,100,000
建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による収出	△ 123,930,335	△ 110,437,044	△ 13,493,291
企業債取扱諸費の支払い	-	-	-
建設改良等の財源に充てるための長期借入金による収入	-	-	-
他会計からの出資による収入	-	-	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 48,230,335	△ 85,837,044	37,606,709
資金増加額	△ 113,346,935	11,373,860	△ 124,720,795
資金期首残高	786,159,336	774,785,476	11,373,860
資金期末残高	672,812,401	786,159,336	△ 113,346,935

（単位：円、税抜）

#### 4 総括

6年度決算は、63,400,768円の赤字決算となり、この結果、繰越欠損金が増加し、当年度未処理欠損金は722,539,560円となった。この大きな要因としては、患者数減少等による医業収益28,518,731円の減少と、新型コロナウイルス感染症入院施設等確保事業に係る県補助金の皆減等による医業外収益10,418,826円減少によるものである。また、現行診療報酬が人件費や材料費の高騰に追い付いていかない構造的な問題も要因の一つとなっている。

医業収益が減少する中、昨今の物価高騰による諸経費の増加など経営を圧迫する状況にありながら、全職員での経費節減に向けた取り組みや、地域連携室を中心とした入退院調整や地域包括ケア病床の効率的な運用による入院単価引き上げへの取り組みなど、評価するものである。

未収金については、個人未収金が前年度に比較し94,334円増加しているものの、収入確保に向けての取り組みは評価するものである。今後も収入の確保と負担の公平性の観点からも、未納者の状況に応じ継続した納付指導など、早期解消に努められたい。

6年度は、在宅ケア室を設置し、介護保険のみなし事業所の指定を受け、訪問リハビリ及び訪問看護を開始するなど、在宅医療の拡充に努め、地域住民が安心して診療が受けられる医療体制の充実が図られた。

今後も、地域の病院としての役割を果たすべく、持続可能な地域医療提供体制を確保のため策定された「国民健康保険葛巻病院経営強化プラン」に基づき、一層の経営改善を望むものである。

## 水道事業会計

### 1 経営の成績及び予算の執行状況

#### (1) 事業の状況について

令和6年度の業務状況は次表のとおりである。

項目	区分	6年度 (A)	5年度 (B)	比較増減 (C) = (A) - (B)	増減率 (C)/(B) %
行政区域内人口	(人)	5,217	5,356	△139	△2.6
年度末給水人口	(人)	4,925	5,055	△130	△2.6
普及率	(%)	94.4	94.4	-	-
年間総配水量	(m <sup>3</sup> )	984,264	1,006,782	△22,518	△2.2
年間総有収水量	(m <sup>3</sup> )	535,069	529,787	5,282	1.0
年間有収率	(%)	54.4	52.6	1.8	3.4
年間料金収入	(円)	118,321,017	115,720,767	2,600,250	2.2
給水原価 ※税抜	(円)	305	276	29	10.5
供給単価 ※税抜	(円)	201	199	2	1.0

■ 6年度末における給水人口は4,925人で、前年度と比較すると、130人(2.6%)減少している。給水区域内人口に対する普及率は94.4%で前年度と同率であった。年間総配水量は984,264立方メートルで、前年度と比較すると、22,518立方メートル(2.2%)減少している。

配水量に対する有収水量の割合を示す有収率は54.4%で、前年度より1.8ポイント増加している。

年間料金収入は118,321,017円で、前年度と比較すると2,600,250円(2.2%)増加している。

#### (2) 収益的収入及び支出について

##### (ア) 収益的収支の状況

収益的収入及び支出の状況は次表のとおりである。

区分		6年度 予算額 (A)	6年度 決算額 (B)	比較増減 (B) - (A)	執行率
収入	営業収益	115,684,000	120,093,717	4,409,717	103.8
	営業外収益	43,951,000	43,885,350	△65,650	99.9
	特別利益	3,000	-	△3,000	-
収入合計① (水道事業収益)		159,638,000	163,979,067	4,341,067	102.7
支出	営業費用	191,635,000	193,923,150	2,288,150	101.2
	営業外費用	10,637,000	10,479,669	△157,331	98.5
	特別損失	3,000	-	△3,000	-
支出合計② (水道事業費用)		202,275,000	204,402,819	2,127,819	101.1
差引額① - ②			△40,423,752		

(単位：円、%、税込)

■ 6年度予算の執行状況は、収入については、予算額 159,638,000 円に対し、決算額 163,979,067 円となった。

営業収益は、予算額 115,684,000 円に対し、決算額 120,093,717 円となり、営業外収益は、予算額 43,951,000 円に対し、決算額 43,885,350 円となった。

支出については、予算額 202,275,000 円に対し、決算額 204,402,819 円で執行率 101.1%となった。

営業費用は、予算額 191,635,000 円に対し、決算額 193,923,150 円で執行率 101.2%となり、営業外費用は、予算額 10,637,000 円に対し、決算額 10,479,669 円で執行率 98.5%となった。

(イ) 特別利益の状況

減価償却費の精査による過年度損益修正益などの特別利益はなかった。

(3) 未処理欠損金の状況について

未処理欠損金などの状況は次表のとおりである。

項 目	6年度	5年度	比較
事業収益	153,158,085	152,095,928	1,062,157
特別利益	-	-	-
総収益 (A)	153,158,085	152,095,928	1,062,157
事業費用	199,846,411	183,812,181	16,034,230
特別損失	-	-	-
総費用 (B)	199,846,411	183,812,181	16,034,230
当年度純利益(△純損失)(C(A-B))	△46,688,326	△31,716,253	△14,972,073
前年度繰越欠損金(D)	223,154,434	191,438,181	31,716,253
当年度未処理欠損金(D)-(C)	269,842,760	223,154,434	46,688,326

(単位:円、税抜)

■ 5年度末の未処理欠損金は 223,154,434 円で、6年度純損失 46,688,326 円を加え、6年度末の未処理欠損金は 269,842,760 円となった。

(4) 繰入状況について

一般会計からの補助金及び出資金の繰入状況は次表のとおりである。

項 目	6年度	5年度	比較
他会計補助金	6,099,066	6,988,643	△889,557
出 資 金	67,761,593	66,313,513	1,448,080
合 計	73,860,659	73,302,156	558,503

(単位:円、税抜)

■ 前年度との比較では、全体で 558,503 円(0.8%)の増となった。主な要因は、企業債償還金の増額に充てるための財源として、一般会計からの繰入額が増加したものである。

(5) 資本的収入及び支出について

資本的収入及び支出の状況は次表のとおりである。

項目	6年度決算額 (A)	5年度決算額 (B)	増減 (A) - (B)
収入	255,267,593	87,026,513	168,241,080
支出	312,847,198	148,949,657	163,897,541
差引	△ 57,579,605	△ 61,923,144	

(単位：円、税込)

- 資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 57,579,605 円は、過年度分損益勘定留保資金で補てんしている。

## 2 財政状態

(1) 資産について

資産の状況は次表のとおりである。

項目	6年度	5年度	比較
① 固定資産 (ア + イ)	2,697,940,261	2,624,190,460	73,749,801
ア 有形固定資産	2,696,385,061	2,622,635,260	73,749,801
土地	47,216,571	47,216,571	-
建物	86,354,571	89,755,965	△ 3,401,394
構築物	2,351,088,585	2,268,133,435	82,955,150
機械及び装置	150,509,070	160,319,658	△ 9,810,588
車両運搬具	1,698,662	2,029,629	△ 330,967
工具器具及び備品	399,375	450,000	△ 50,625
建物仮勘定	59,118,227	54,730,002	4,388,225
イ 無形固定資産	1,555,200	1,555,200	-
電話加入権	1,555,200	1,555,200	-
② 流動資産	105,435,375	126,251,086	△ 20,815,711
現金及び預金	95,972,974	125,568,811	△ 29,595,837
未収金	9,356,501	549,415	8,807,086
貯蔵品	105,900	132,860	△ 26,960
資産合計 (① + ②)	2,803,375,636	2,750,441,546	52,934,090

(単位：円、税抜)

- 資産合計は 2,803,375,636 円で、前年度との比較では 52,934,090 円 (1.9%) の増となった。有形固定資産の増加は、構築物が 82,955,150 円の増などによるものであり、これらは主に、水道管布設工事に伴う資産の取得によるものである。

流動資産の合計は、105,435,375 円で、前年度との比較では 20,815,711 円 (16.5%) の減となった。主に現金及び預金の減によるものである。

(2) 資本について

資本の合計は、559,408,358 円となった。

(3) 負債について

負債の状況は次表のとおりである。

項 目	6 年度	5 年度	比 較
① 固定負債 (A)	1,191,030,027	1,174,394,223	16,635,804
企業債	1,191,030,027	1,174,394,223	16,635,804
② 流動負債 (B)	116,670,411	120,899,198	△ 4,228,787
企業債	114,865,000	116,948,000	△ 2,083,000
未払金	1,137,296	3,283,083	△ 2,145,787
前受金	6,115	6,115	-
引当金	662,000	662,000	-
③ 繰延収益 (C)	936,266,840	916,813,034	19,453,806
長期前受金	1,218,255,697	1,162,149,697	56,106,000
長期前受金収益化累計額	△ 281,988,857	△ 245,336,663	△ 36,652,194
負債合計 (A+B+C)	2,243,967,278	2,212,106,455	31,860,823

(単位：円、税抜)

- 負債合計は 2,243,967,278 円で、前年度比 31,860,823 円 (1.4%) の増となった。主な要因は、建設改良費の増加に伴い財源となる企業債の借入額の増加によるものである。

(4) 不良債務について

流動資産合計額から流動負債合計額を差し引いた金額がマイナスの場合は、不良債務という。

区 分	6 年度	5 年度	比 較
流動資産合計額 (A)	105,435,375	126,251,086	△ 20,815,711
流動負債合計額 (B)	116,670,411	120,899,198	△ 4,228,787
差引 (A)-(B)	△ 11,235,036	5,351,888	△ 16,586,924
営業収益	109,315,673	107,135,125	2,180,548
不良債務比率	10.3%	-	-

(単位：円、税抜)

- 11,235,036 円の不良債務が発生しており、不良債務比率は 10.3% となっている。

(5) 未収金について

個人未収金の状況は、次表のとおりである。

区 分	6 年度	5 年度	4 年度
営業未収金	898,177	549,415	456,199
現年度	882,216	549,415	456,199
過年度	15,961	-	-
営業外未収金	-	-	-
合 計	898,177	549,415	456,199

(単位：円)

- 営業未収金 898,177 円で、前年度比 348,762 円 (63.5%) 増加した。

### 3 資金状況

6年度のキャッシュ・フローの状況は、次表のとおりである。

業務活動によるキャッシュ・フローは、水道事業の業務活動の実施に必要な資金の状態を表すもので、投資活動と財務活動以外の取引によるものを表している。

投資活動によるキャッシュ・フローは、将来に向けた運営基盤の確立のために行う投資活動に係る資金の状態を表している。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入、返済による収入、支出などの、資金調達及び返済による資金の状態を表している。

キャッシュ・フロー計算書

区 分	6 年度	5 年度	比較
<b>1 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
当期純利益	△ 46,688,326	△ 31,716,253	△ 14,972,073
減価償却費	103,366,888	102,360,916	1,005,972
引当金の増減額（△は減少）	-	42,000	△ 42,000
長期前受金戻入額	△ 36,652,194	△ 36,718,940	66,746
受取利息及び受取配当金	△ 31,918	△ 1,407	△ 30,511
支払利息	10,479,669	11,732,322	△ 1,252,653
有形固定資産除却損等	1,092,091	-	1,092,091
営業活動による資産及び負債の増減	-	-	-
未収金の増減額（△は増加）	△ 8,807,086	△ 93,216	△ 8,713,870
たな卸資産の増減額	26,960	39,140	△ 12,180
前払金の増減額（△は増加）	-	-	-
未払金（未払債務）の増減額（△は減少）	△ 2,145,787	△ 8,424,295	6,278,508
その他の流動負債の増減額（△は減少）	-	-	-
その他（営業活動以外の物）	-	-	-
固定資産の売却	-	-	-
小計	20,640,297	37,220,267	△ 16,579,970
利息及び配当金の受取額	31,918	1,407	30,511
利息の支払額	△ 10,479,669	△ 11,732,322	1,252,653
その他	-	-	-
業務活動によるキャッシュ・フロー	10,192,546	25,489,352	△ 15,296,806
<b>2 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出	△ 178,208,780	△ 29,964,743	△ 148,244,037
有形固定資産の売却による収入	-	-	-
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	-	-	-
国庫補助金による収入	56,106,000	6,913,000	49,193,000
その他	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 122,102,780	△ 23,051,743	△ 99,051,037
<b>3 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
一時借入金の返済による支出	-	-	-
建設改良等の財源に充てるための企業債による収入	131,400,000	13,800,000	117,600,000
建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 116,847,196	△ 116,031,494	815,702
企業債取扱諸費の支払い	-	-	-
建設改良等の財源に充てるための長期借入金による収入	-	-	-
他会計からの出資による収入	67,761,593	66,313,513	1,448,080
財務活動によるキャッシュ・フロー	82,314,397	△ 35,917,981	118,232,378
資金増加額	△ 29,595,837	△ 33,480,372	3,884,535
資金期首残高	125,568,811	159,049,183	△ 33,480,372
資金期末残高	95,972,974	125,568,811	△ 29,595,837

（単位：円、税抜）

#### 4 総括

6年度の決算は、損益勘定において46,688,326円の純損失が生じており、この結果、繰越欠損金が増加し、当年度未処理欠損金は269,842,760円となった。前年度と同様、資産の減価償却費が103,366,888円と多額であったことが大きな要因である。営業費用189,366,742円のうち、減価償却費が54.6%を占めている。また、物価高騰による動力費等の施設管理経費の増加も要因の一つとなっている。

日常業務では、老朽化した施設を適正に管理し、最小限の経費での維持管理に努めている。

令和7年1月に行った料金改定により料金収入は増加するものの、今後も純損失は、資産の減価償却費などにより、3,000万円以上で推移していくことが予想され、施設整備を推進する際に一層の資金計画が重要となる。

併せて、事業の効率性を高めるため、計画的な更新工事と適切な維持工事、漏水調査の実施や災害防止策などにも努められたい。

なお、給水収益は水道経営の根幹であり、水道事業の健全な運営を図るためにも、「葛巻町水道事業経営戦略」に基づいた取り組みを重点的に実施することが望まれる。

## 下水道事業会計

### 1 経営の成績及び予算の執行状況

#### (1) 事業の状況について

令和6年度の業務状況は次表のとおりである。

項目	区分	6年度 (A)	5年度 (B)	比較増減 (C) = (A) - (B)	増減率 (C)/(B) %
行政区域内人口	(人)	5,217	5,356	△139	△2.6
処理区域内人口	(人)	3,252	3,279	△27	△0.8
普及率	(%)	62.3	61.2	1.1	1.8
処理区域内接続人口	(人)	2,921	2,913	8	0.3
水洗化率	(%)	56.0	54.4	1.6	2.9
処理戸数	(戸)	1,359	1,326	33	2.5
年間総処理水量	(m <sup>3</sup> )	293,797	292,302	1,495	0.5
一日平均処理水量	(m <sup>3</sup> )	805	801	4	0.5
有収水量	(m <sup>3</sup> )	261,246	256,268	4,978	1.9
有収率	(%)	88.9	87.7	1.2	1.4

■ 6年度末における処理戸数は1,359戸で、前年度と比較すると、33戸(2.5%)増加している。処理区域内人口に対する普及率は62.3%で前年度と比較すると1.1ポイント(1.8%)増加している。年間総処理水量は293,797立方メートルで、前年度と比較すると、1,495立方メートル(0.5%)増加している。

年間総処理水量に対する有収水量の割合を示す有収率は88.9%で、前年度より1.2ポイント増加している。

#### (2) 収益的収入及び支出について

##### (ア) 収益的収支の状況

収益的収入及び支出の状況は次表のとおりである。

区 分		6年度 予算額 (A)	6年度 決算額 (B)	比較増減 (B) - (A)	執行率
収 入	営業収益	41,958,000	39,248,462	△2,709,538	93.5
	営業外収益	119,942,000	117,679,296	△2,262,704	98.1
	特別利益	3,000	-	△3,000	-
収入合計① (下水道事業収益)		161,903,000	156,927,758	△4,975,242	96.9
支 出	営業費用	147,997,000	142,067,151	△5,929,849	96.0
	営業外費用	12,461,000	13,020,364	559,364	104.5
	特別損失	3,000	-	△3,000	-
支出合計② (下水道事業費用)		160,461,000	155,087,515	△5,373,485	96.7
差引額①-②			1,840,243		

(単位：円、%、税込)

■ 6年度予算の執行状況は、収入については、予算額 161,903,000 円に対し、決算額 156,927,758 円となった。

営業収益は、予算額 41,958,000 円に対し、決算額 39,248,462 円となり、営業外収益は、予算額 119,942,000 円に対し、決算額 117,679,296 円となった。

支出については、予算額 160,461,000 円に対し、決算額 155,087,515 円で執行率 96.7%となった。

営業費用は、予算額 147,997,000 円に対し、決算額 142,067,151 円で執行率 96.0%となり、営業外費用は、予算額 12,461,000 円に対し、決算額 13,020,364 円で執行率 104.5%となった。

(イ) 特別利益の状況

減価償却費の精査による過年度損益修正益などの特別利益はなかった。

(3) 未処理欠損金の状況について

未処理欠損金などの状況は次表のとおりである。

項 目	6 年度	5 年度	比較
事業収益	153,359,716		
特別利益	-		
総収益 (A)	153,359,716		
事業費用	151,400,296		
特別損失	-		
総費用 (B)	151,400,296		
当年度純利益(△純損失)(C(A-B))	1,959,420		
前年度繰越利益剰余金(D)	-		
当年度未処理分利益剰余金(D)-(C)	1,959,420		

(単位:円、税抜)

■ 6年度末の未処理分利益剰余金は 1,959,420 円となった。

(4) 繰入状況について

一般会計からの補助金及び出資金の繰入状況は次表のとおりである。

項 目	6 年度	5 年度	比較
他会計補助金	12,461,000		
他会計負担金	31,454,000		
出 資 金	71,724,000		
合 計	115,639,000		

(単位:円、税抜)

■ 6年度の一般会計からの繰入額は全体で 115,639,000 円となった。

(5) 資本的収入及び支出について

資本的収入及び支出の状況は次表のとおりである。

項目	6年度決算額 (A)	5年度決算額 (B)	増減 (A) - (B)
収入	220,132,087		
支出	147,444,876		
差引	72,687,211		

(単位：円、税込)

■ 資本的収入額 220,132,087 円に対し資本的支出額 147,444,876 円となっている。

## 2 財政状態

(1) 資産について

資産の状況は次表のとおりである。

項目	6年度	5年度	比較
① 固定資産 (ア + イ)	2,347,467,189		
ア 有形固定資産	2,309,386,689		
土地	59,620,832		
建物	76,643,645		
構築物	1,671,442,310		
機械及び装置	501,679,902		
イ 無形固定資産	29,854,000		
ソフトウェア	2,904,000		
その他無形固定資産	26,950,000		
ウ 投資その他の資産	8,226,500		
基金	8,226,500		
② 流動資産	116,178,095		
現金及び預金	112,646,326		
未収金	3,531,769		
貯蔵品	-		
資産合計 (① + ②)	2,463,645,284		

(単位：円、税抜)

■ 固定資産の合計が 2,347,467,189 円、流動資産の合計が 116,178,095 円となっており、資産合計は 2,463,645,284 円となっている。

(2) 資本について

資本の合計は、337,391,055 円となった。

(3) 負債について

負債の状況は次表のとおりである。

項 目	6 年度	5 年度	比較
① 固定負債 (A)	785,684,749		
企業債	785,684,749		
② 流動負債 (B)	131,017,636		
企業債	121,038,000		
未払金	9,979,636		
前受金	-		
引当金	-		
③ 繰延収益 (C)	1,209,551,844		
長期前受金	1,282,486,184		
長期前受金収益化累計額	△72,934,340		
負債合計 (A+B+C)	2,126,254,229		

(単位：円、税抜)

■ 固定負債 785,684,749 円、流動負債 131,017,636 円、繰延収益 1,209,551,844 円となっており、負債合計は 2,126,254,229 円となっている。

(4) 不良債務について

流動資産合計額から流動負債合計額を差し引いた金額がマイナスの場合は、不良債務という。

区 分	6 年度	5 年度	比較
流動資産合計額 (A)	116,178,095		
流動負債合計額 (B)	131,017,636		
差引 (A)-(B)	△14,839,541		
営業収益	35,680,420		
不良債務比率	41.6%	-	-

(単位：円、税抜)

■ 14,839,541 円の不良債務が発生しており、不良債務比率は 41.6%となっている。

(5) 未収金について

個人未収金の状況は、次表のとおりである。

区 分	6 年度	5 年度	4 年度
営業未収金	113,916		
現年度	113,916		
過年度	-		
営業外未収金	-		
合 計	113,916		

(単位：円)

■ 6 年度末の営業未収金は、113,916 円となっている。

### 3 資金状況

6年度のキャッシュ・フローの状況は、次表のとおりである。

業務活動によるキャッシュ・フローは、下水道事業の業務活動の実施に必要な資金の状態を表すもので、投資活動と財務活動以外の取引によるものを表している。

投資活動によるキャッシュ・フローは、将来に向けた運営基盤の確立のために行う投資活動に係る資金の状態を表している。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入、返済による収入、支出などの、資金調達及び返済による資金の状態を表している。

キャッシュ・フロー計算書

区 分	6 年度	5 年度	比較
<b>1 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
当期純利益	1,959,420		
減価償却費	94,416,112		
引当金の増減額（△は減少）	-		
長期前受金戻入額	△72,934,340		
受取利息及び受取配当金	△53,725		
支払利息	11,742,281		
有形固定資産除却損等	-		
営業活動による資産及び負債の増減	-		
未収金の増減額（△は増加）	△86,074		
たな卸資産の増減額	-		
前払金の増減額（△は増加）	-		
未払金（未払債務）の増減額（△は減少）	1,157,010		
その他の流動負債の増減額（△は減少）	-		
その他（営業活動以外の物）	-		
固定資産の売却	-		
小計	36,200,684		
利息及び配当金の受取額	53,725		
利息の支払額	△11,742,281		
その他	-		
業務活動によるキャッシュ・フロー	24,512,128		
<b>2 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出	△20,772,030		
有形固定資産の売却による収入	-		
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	-		
国庫補助金による収入	10,192,000		
基金の積立による支出	△1,983,000		
その他	95,916,087		
投資活動によるキャッシュ・フロー	83,353,057		
<b>3 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
一時借入金の返済による支出	-		
建設改良等の財源に充てるための企業債による収入	42,300,000		
建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△122,616,087		
企業債取扱諸費の支払い	-		
建設改良等の財源に充てるための長期借入金による収入	-		
他会計からの出資による収入	71,724,000		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,592,087		
資金増加額	99,273,098		
資金期首残高	13,373,228		
資金期末残高	112,646,326		

（単位：円、税抜）

#### 4 総括

町の下水道事業会計は、今年度から公営企業会計に移行し、6年度の決算は、損益勘定において、純利益が1,959,420円となった。

令和6年度決算における経営成績については、経営の健全性を示す経常収支比率は101.3%となり、健全経営の水準とされる100%を上回っている。また、使用料水準の妥当性を示す経費回収率は、105.1%となり、事業に必要な費用を使用料で賄えている状況とされる100%を上回っている状況である。

一方、短期の債務に対する支払い能力を示す流動比率は100%以上必要とされているが88.7%となっており、経営改善が求められる。

下水道経営については、将来にわたって安定的な事業継続をしていくために収支均衡を意識しながら経常費用の抑制、収支計画の精査など、下水道事業の健全化に関する取り組みに努められるとともに、下水道業務についても、水洗化率向上のため、一般会計において実施している水洗化普及支援事業および高齢者世帯下水道使用料支援事業とともに普及啓発に努められたい。

引き続き、葛巻町総合計画後期計画及びいわて汚水処理ビジョン2017に基づく円滑な事業運営が望まれる。